

地域による 学校支援活動 事例集



平成 26 年度

文部科学省
生涯学習政策局
初等中等教育局

地域とふれあい、地域に発信！ 燕南小の子供たちを地域とともに育む。

新潟県燕市

活動名

燕南小学校地域に根ざす学校応援団

関係する学校

燕市立燕南小学校

基本データ	活動区分	※H25年度の実績（補助の有無についてはH26年度状況）			
	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	補助の有無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	補助の有無
		1人	143人	21年度	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	補助の有無
		実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日	委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要

平成21年度に、「学校地域支援本部事業」として始まり、平成25年度から「地域に根ざす学校応援団事業」に名称が変わった。発足当初は読書活動の充実が中心であったが、次第に学校教育活動全般への支援活動に広がっていった。

現在は、本の読み語り、図書館への「燕南小子どもの100冊」の整備、花いっぱい活動、各学年の校外学習への引率補助など、多様な教育活動に多くの保護者や地域ボランティアが参加している。

全校登山後のボランティアアンケート、体験活動の後のゲストティーチャーへの意見を聞き取り、次回の改善策を検討している。

地域コーディネーターの役割を明確にして、学校と地域ボランティアとの連絡調整、活動内容の検討をシステム化している。学校側の窓口は教頭が行い、地域コーディネーターと各学年、職員間の連絡、調整を図っている。

広報活動として、ボランティアだよりを各学期に1回ずつ年間3回発行し、保護者や地域の方々、ボランティアに向けた情報発信を行っている。

また、自治会や公民館活動とも連携して、地域で子供たちが活動できる環境を広げている。挨拶運動や夏祭り行事への参加、地域交流会、防犯訓練への協力など、学校では体験できない活動にも積極的に参加している。

● 特 徴

【特徴的な活動内容】

地域コーディネーターが、ボランティア募集の窓口として一本化され、各学年との連絡体制や講師やゲストティーチャーとの交渉がスムーズに行えるようにシステム化している。また、地域コーディネーターが、実践記録を取り、今後の実践に役立てている。6月と2月に地域教育協議会・サポート委員会合同会を実施している。例えば、ボランティアが集まりにくい場合の人材確保の方法や互いに気持ちよく活動するための配慮等について意見交換するなど、より地域や保護者の教育力を活用できる方策を協議している。

ボランティア活動は、普段の授業や学年学校行事、読み語りや図書館整備、学校環境整備など多岐にわたっている。活動実施に当たっては、担当とボランティアとの打合せ時間を確保し、ボランティア活動の目的、活動内容等の周知を図っている。

【実施に当たっての工夫】

地域の人材の活用をより図っていくために、地域への情報発信と活動の成果の公表を行う心がけている。また、読み語りボランティアや図書館ボランティアの人数を確保するために、ボランティアのローテーションやサポート委員を通しての呼びかけなどの工夫を心がけている。

ボランティア活動を特定の方に集中させないように、ボランティア同士のネットワークを作り、連絡、協力体制を工夫している。これにより、年々ボランティア参加人数が増えている。



燕南小子ども100冊の整備

● 事業を実施して

子供たちと地域、保護者のつながりが深まることで、地域の良さを知り、より地域を愛する心が育まれつつある。ボランティアや活動に協力してくださった方々への感謝の会などを子供たちの手で行う場面が増えてきた。

地域、保護者の方々からは、学校に関わることで、「地域のかげがえのない学校」という意識が高まりつつあることと、学校の姿がよく見え、学校をよりよく理解できるという声が聞かれるようになった。そして、学校に関わることがライフワークの一つとしてとらえられるようになった方もいる。

● その他

活動への参加をお願いするだけでなく、参加後の評価を充実させていくことで、学校にとっても、地域・保護者のボランティアにとっても、よりよい活動が生み出されている。

引き続き、ボランティア活動の充実に向けて、ボランティアの意思を大切にしながら、燕南小の子供たちのよりよい成長に向け、地域と学校が一体となって取り組んでいきたい。



花いっぱい活動の補助